



こんにちは、まちかど図書館ぼたんです！

暑さが本格的になり、夏の訪れを感じる季節となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。熱中症や夏バテになりやすい時期ですので、水分補給や休息をしっかりと取りながら、どうぞお身体に気をつけてお過ごしください。

今月のニュースレターでは、6月に開催したイベントの様子をはじめ、まちかど図書館ぼたんでの最近の活動やお知らせをお届けします。ぜひ最後までご覧ください。

Topic 01 第19回イベント、開催しました！

2026年6月27日（土）に、第19回イベントを開催しました。今回は、オーナー様である長野県立大学健康発達学部食健康学科教授の杉山英子さんをお招きし、「杉山先生おすすめの一冊 — 三浦綾子『氷点』と新田次郎『聖職の碑』の魅力を語る —」をテーマにお話しいただきました。

お話では、『氷点』と『聖職の碑』それぞれのあらすじや作品の魅力、登場人物の心情、作品に込められたメッセージなどについて、杉山先生ならではの視点で分かりやすくご紹介いただきました。参加者の皆さんも熱心に耳を傾け、本を読む楽しさや作品の奥深さを改めて感じる機会となりました。

当日は、本棚オーナーの山下さん、鈴木さん、金子さん、利用者様2名にご参加いただきました。また、築山ゼミ生3年と4年合わせて5名も参加し全員で11名での開催となりました。お話後には、それぞれが読書を通じて感じたことやおすすめの本について意見を交わし、終始和やかで温かな雰囲気での交流の場となりました。

今回のイベントを通して、本をきっかけに世代や立場を超えた交流が生まれ、まちかど図書館ぼたんならではの「人と人をつなぐ場」の魅力を改めて実感するひとときとなりました。

【『氷点』の魅力と三浦綾子の人生】

お話では、まず三浦綾子さんの生涯について紹介されました。戦時中は教師として「正しい」と信じて子どもたちを指導していましたが、終戦後、自らが教えてきたことが誤りであったことに大きな衝撃を受け、教職を退職します。その後、結核による長い療養生活や信仰との出会い、多くの人々との支えを通して、自らの生き方を見つめ直していったことが語られました。特に、前川正さんとの交流や、後に夫となる三浦光世さんとの出会いは、作家として歩み始める大きな転機となりました。



続いて、『氷点』が誕生した経緯についてのお話がありました。夫の光世さんが入院した際、「もし大切な人が傷つけられたら、その相手を赦すことができるだろうか」と自らに問いかけた経験が、小説の着想につながったことが紹介されました。厳しい寒さの中、雑貨店の仕事を終えた夜に執筆を続け、光世さんの「この小説は入賞する」という励ましを支えに完成させた『氷点』

は、朝日新聞懸賞小説で第1位に選ばれ、大きな話題となりました。作品紹介では、『氷点』は殺人事件をきっかけに始まる物語で、主人公・陽子を中心に「罪と赦し」という重いテーマが描かれていることが説明されました。物語はサスペンス性が高く、先の展開が気になる構成でありながら、人間の弱さや葛藤、家族の絆について深く考えさせられる作品であることが紹介されました。また、『続氷点』では伏線が丁寧に回収され、主人公・陽子が実の母を赦すことができるのかという新たなテーマが描かれていることもお話しいただきました。

最後に杉山先生から、「人は誰でも良い人でありたいと思って生きています。しかし、自分を『良い人』だと思ふことで、知らず知らずのうちに他人を見下してしまうことがあります。『氷点』は、そのような人間の心の弱さと、赦すことの難しさ、そして希望について考えさせてくれる作品です。特に若い世代にもぜひ読んでほしい一冊です。」とのメッセージが伝えられました。



【『聖職の碑』に描かれた実話】

続いて紹介されたのは、新田次郎さんの『聖職の碑』です。杉山先生は、新田次郎さんの生涯や作品が生まれた背景に加え、ご自身が大学時代に『聖職の碑』と出会った思い出も交えながら、その魅力を語ってくださいました。

『聖職の碑』は、1913年に実際に起きた「木曽駒ヶ岳大量遭難事故」をもとにした小説です。当時、学校登山に参加した児童や教師たちは、事前に天候を確認して入山したものの、急激な天候の悪化に見舞われます。避難場所として目指した山小屋はすでに倒壊しており、残された資材で応急的な小屋を作って一夜を過ごしましたが、暴風雨と寒さの中で体力を奪われ、校長を含む11名が命を落とす痛ましい事故となりました。お話では、遭難後も赤羽校長が自らのシャツを脱いで生徒に着せ、最後まで子どもたちを守ろうとしていたことや、事故後には遺族から厳しい非難を受けながらも、その献身的な行動が後に再評



価され、遭難記念碑が建立された経緯についても紹介されました。また、記念碑建立に関わった人物が赤羽校長を「聖職の人」と語ったことが、小説の題名『聖職の碑』の由来となったことも印象的なお話でした。

さらに杉山先生は、ご自身が大学2年生の夏、木曽駒ヶ岳への登山を前に先輩から「ロープウェイではなく、自分の足で登るなら『聖職の碑』を読んでから来なさい」と勧められ、この作品と出会った経緯を紹介してくださいました。実際に登山中には雷雨に遭い、避難小屋で一夜を過ごした経験も重なり、作品の重みをより深く感じたそうです。お話を通して、山岳小説としての面白さだけでなく、教育者としての責任や命の尊さ、人を思いやる心について改めて考えさせられる一冊であることが伝わる、貴重なお話となりました。



新田次郎さん

【まとめ】

お話の最後には、杉山先生が三浦綾子さんと新田次郎さんに共通する魅力についてお話してくださいました。

お二人はともに戦争を経験し、三浦綾子さんは長い闘病生活、新田次郎さんは終戦後の抑留生活を経験しています。こうした人生経験があるからこそ、人間の弱さや葛藤、苦しみ、そして希望をリアリティをもって描き出していることが両作品の大きな魅力であると紹介されました。

また、お二人とも自然の情景描写が非常に美しく、読者がまるでその場にいるかのように情景を思い浮かべられる表現力も特徴です。さらに、実在の人物や出来事を題材とした伝記的な作品も多く、人生や歴史について深く考えさせられる点も共通しているとお話しされました。

今回のお話を通して、作品の魅力だけでなく、作者の人生や時代背景を知ること、文学をより深く味わうことの大切さを学ぶ貴重な機会となりました。

【参加者の感想】



本を紹介するだけではなく、「人生のどのタイミングで読むかによって作品の見え方は変わる」という読書の奥深さを改めて感じる時間となりました。ここで参加者からの感想をご紹介します。

『聖職の碑』については、実際に登山経験のある杉山先生が自身の体験を交えながら紹介。「登山前に新田次郎さんの本を読んで怖くなって登るのをやめようとは思わなかったか」という質問に対しては、怖い思いはなく、仲間と登山を楽しんだエピソードを披露して下さいました。一方で、山の天候の怖さについても語られ、雷雲から逃れるように急いで山小屋へ避難した経験が紹介されました。

ここでオーナーの山下さんから豆知識！「遠くの雷はどのくらいの先の音が想像つきますか？」実は、雷鳴が聞こえる範囲はおおよそ10～15km。積乱雲の高さも約1万～1万5千メートルあるため、「遠くで鳴っている」と感じて、実は自分の真上で発生している可能性があるそうです。

読後の感想では、「どちらの作品も読み終えてもしばらく作品の世界から戻ってこれない」「自分だったらどう行動するだろうと考え続けてしまう本」という声が聞かれました。特に『氷点』については、「学生時代に読んだときと今では違う見方になる」という意見が印象的でした。若い頃は登場人物を“大人”として見ていたものの、年月を重ねた今では自分より年下の人物として読むことになり、受け止め方が大きく変わったそうです。「若いうちに少し難しい本でも読んでおき、何年か経って読み返すことで新しい発見がある」という読書の楽しみも共有されました。先生も同じように、『聖職の碑』を若い頃は表面的な出来事のことを追って読んでいたものの、読み返してみると、白樺派教育の思想や、遭難事故後の社会の反応、新田次郎さんが丹念な取材を重ねて作品を書き上げた姿勢など、当時は気づかなかった部分に強く惹かれたと話されました。また、『続氷点』についても、登場人物たちに過酷な運命が次々と訪れる展開に改めて驚き、「三浦綾子さんは登場する人に過酷な運命を背負わせる作家だ」と感じたことが紹介されました。『氷点』の登場人物・啓造が「犯人の娘を引き取る」という物語の根幹に関わる行動についても話題となりました。先生は「よくそんな発想ができるものだと思った」と率直な感想を語り、この作

品ならではの大胆な設定が、今なお多くの読者を惹きつける理由の一つであることが改めて感じられました。参加者からは、「三浦綾子さんの人生を知り、作品につながる背景が理解できた」「若い頃に何度も読んだ作品をまた読み返したくなった」「映画やドラマで名前は知っていたが、この機会に『続氷点』も読んでみたい」といった感想が寄せられました。また、「テーマである『許し』は現代にも通じる」「世代を超えて読み継がれる理由が分かった」という声もありました。

学生からは、「年代の違う方と話すきっかけは本や音楽が多い」「小説はあまり読まなかったが、この機会に読んでみたい」「ミステリーや学術書を読むことが多いが、『氷点』は聖書の教えと結びついた物語で新鮮だった」など、多様な読書への関心が語られました。

一冊の本は、読む年代や経験によって新しい景色を見せてくれます。参加者同士の対話を通して、本が世代を超えたコミュニケーションのきっかけとなることを改めて実感できる、充実した時間となりました。ご参加頂いた皆様、本当にありがとうございました。

Topic 02 8月のイベントについて

第21回イベントを開催いたします。今回は、保護動物カフェを開いた長野県立大学学生によるお話をいただきます。

日時：8月29日(土) 13:00～15:00

場所：まちかど図書館ぼたん

スピーカー：長野県立大学グローバルマネジメント学部4年 菅野煌世さん

テーマ：「現役長野県立大学生による保護動物カフェ創業」



Topic 03 2周年記念イベントについて

第22回イベントでは、2周年記念イベントを開催いたします！

まちを読む、ひとを読む一三人の本好きが語る、つながりを生む図書館の魅力一日

日時：9月5日(土) 13:30～15:30

場所：長野県立大学 後町キャンパス 長野市南長野西後町614-1

参加費：無料

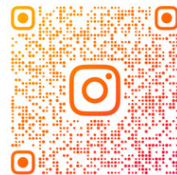
皆様のご参加をお待ちしております！

Topic 04 開館時間について

ホームページ



Instagram



開館時間は10時から18時までですが、ゼミ生と教員が店番をしている関係で、その時間内で、可能な時間に開館しております。詳細はホームページまたはInstagramで確認をお願いいたします。

URL: <https://machinakabotan.com/www.machinakabotan.com/>

Topic 05 アクセス



〒380-0826

長野市南長野北石堂町1185-6

JR長野駅から徒歩7分、

※専用駐車場はございませんので、車でお越しの際はお近くのコインパーキングへのご駐車をお願いいたします。



2026年7月27日発行

編集：長野県立大学 グローバルマネジメント学部 築山ゼミナール

住所：〒380-8525 長野市三輪8-49-7 B309研究室

Tel: 026-217-2241 (代表) fax: 026-235-0026

E-mail: tsukiyama.hideo@u-nagano.ac.jp

主催：長野市中心市街地活性化協議会（事務局：まちづくり長野）